

# 第1学年音楽科学習指導案

時間・場所 4校時 第3音楽室  
 学 級 1年3組 30名 (男子14名 女子16名)  
 指 導 者 山口 由華

1. 題材名「日本の音楽に親しもう」  
 教材名 箏曲「六段の調」「さくら変奏曲」 八橋検校 作曲

## 2. 題材について

### (1) 題材観

本題材は、学習指導要領に示された指導事項のうち、第1学年の内容「A 表現」(3) 創作の事項ア「言葉や音楽などの特徴を感じとり、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。」「B 鑑賞」(1)「音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」【共通事項】では、(1) ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力を育てることをねらいとしている。

箏曲「六段の調」や「さくら変奏曲」の奏法や曲想により、箏曲の特徴を捉えたり、箏の奏法を捉えたりすることで、日本の音楽への知覚・感受を深めることができる題材と考える。また捉えたことを生かし、平調子を用いて日本らしさをイメージした旋律をつくり、表現力を高められる題材であると考えた。

### (2) 生徒観

普通の授業では、音楽に関心が高い生徒が多く、発言や技能の習得に進んで取り組み、鑑賞分野では、「作曲者が工夫したところはどんなところか」「それは音楽のどんなところから感じるのか」を自分なりに考え、根拠をもって言葉でまとめることができる生徒が多い。

本題材でも自分のイメージを持ち、自分の考えを言葉で説明し、それを音楽表現させ、他と交流しながら、個の学習を深める機会としたい。創作の場面では、小さな作品であっても自分の持ったイメージに近づける表現方法を身に付ける機会としたい。

### (3) 指導観

「さくらさくら」「六段の調」2曲共に平調子で作られており、また比較的平易に演奏に取り掛かれる曲であり、かつ「日本らしさ」を感じとることができる曲であると考え。前段階では基礎的な演奏技術を身に付けさせることにより、演奏する喜びを味わわせ、日本音楽への学習意欲へとつなげていきたい。

本題材は、鑑賞と創作の活動を関連付けたもので、「さくらさくら変奏曲」の冒頭に、8拍程度の前奏を創作することに取り組みさせる。初めての創作なので、リズムパターンを提示するなど、学習を進めるにあたってのステップを設けながら取り組みせ、達成感を持てる題材としたい。また創作することで、日本の音階や独特な音の特徴をつかませ、より一層日本音楽への興味を持たせる機会としていきたい。

## 3. 題材の目標

- ・ 箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら箏の特徴を感じとって音楽表現を工夫し、どのような曲にするか、旋律をつくるかについて思いや意図を持つ。【音楽表現の創意工夫】
- ・ 平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて簡単な旋律をつくる。【音楽表現の技能】
- ・ 箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、その特徴を自分の言葉で表現できる。【鑑賞の能力】

## 4. 題材の評価規準

<観点1> 関心・意欲・態度	<観点2> 音楽表現の創意工夫	<観点3> 音楽表現の技能	<観点4> 鑑賞の能力
奏法に関心を持ち、奏法を用いたときの音の特徴や、その効果を感じとろうとしている。	箏の音色や独特な奏法による演奏効果など、日本の楽器や伝統音楽の特徴を感じとり、その特徴を生かしてどのような曲にするか、旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。	平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて、旋律をつくる。	箏独特の音色や奏法による演奏効果を聴き取り、箏の音色の美しさを味わうことができる。

## 5. 学習計画

- 1 「さくらさくら」を鑑賞し、基本的な奏法や読譜の仕方を身に付けられる。(1)
- 2 箏の奏法と読譜の仕方を身に付け、「六段の調」を聴くことができる。(1)
- 3 即興的に音を出し、自分のイメージを持って簡単な創作する。(1)
- 4 表現したいイメージにふさわしい箏の旋律をつくる。(本時)
- 5 自分がつくった、箏のための旋律を皆の前で発表する。(1)

6. 本時の指導 (4/5)

(1) ねらい 箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じとって音楽表現を工夫する。

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導のための工夫・評価
<p>1. 前時の復習</p> <p>2. 学習内容の把握</p> <p>&lt;学習課題&gt;</p>	<p>・前時の学習内容の振り返り、奏法とその音色を確認する。</p> <p>・「さくらさくら変奏曲」の冒頭を聴き、それにふさわしい前奏を考える。</p>	<p>・箏の基本的な奏法と、音を確認する。</p> <p>・基本的に8拍程度(2小節)とする。</p> <p>□ (視覚化) ・「平調子」の音階を示す。</p> <p>・奏法を明示する。</p>
<p>「さくらさくら変奏曲」にふさわしい前奏をつくろう。</p>		
<p>&lt;見通し&gt;</p> <p>3. 曲作りをし、記譜する。</p> <p>&lt;課題の追究&gt;</p> <p>4. 3人一組の中で、旋律を発表し合い、アドバイスをし合う。</p> <p>&lt;まとめ&gt;</p> <p>5. 教師の指名による代表の生徒に発表させ、聴き合い、よさを共有する。</p>	<p>・短いフレーズでもいいので、3人一組で、曲作りをさせる。</p> <p>・小集団で聴き合いをし、アドバイスを互いにし、それを元に自分の旋律を修正していく。</p> <p>・注目するポイントを明示し、全体のものにする。</p>	<p>・3人一組であるが、個人の創作ができるよう、個人の時間を確保するよう配慮する。また記譜は縦書きでさせる。</p> <p>・鍵盤ハーモニカやキーボードも活用させる。</p> <p>□ (視覚化) リズムの範例を示し、創作の手がかりとさせる。</p> <p>・演奏しながら修正させる。</p> <div data-bbox="850 1144 1453 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、簡単な旋律をつくることができたか。</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>机間指導</p> </div> <p>□ (視覚化) 生徒の発言を板書して、よさを全体のものとし、個の考えが深められるようにする。</p>
<p>&lt;振り返り&gt;</p> <p>6. ワークシートと振り返り用紙に書く。</p>	<p>・振り返りのポイントを絞って書く。</p> <p>・他の振り返りを聞き、学習したことについて共有し合う。</p>	<p>・「日本らしさ」をそれぞれの曲に表せたか、意欲的に学習に取り組めたかについて書かせる。</p>